

## Q&amp;A

慢性下痢と時折の血便を主訴に紹介となった  
中年男性

## 【問題】

症例：51歳，男性。

既往歴：高血圧で内服治療中，多血症で経過観察中。

生活歴：喫煙 40本/日。

現病歴：当院来院約5年前より慢性の下痢があり，また時折の血便を認めていた。来院18カ月前と7カ月前に他院で下部消化管内視鏡を施行し，非特異的腸炎との診断であった。一時5-ASA製剤の内服を行ったが著効しなかった。精査目的に当院に紹介受診となった。

現症：明らかな腹部所見なし。

血液検査所見：WBC 9600/ $\mu$ l, Hb 16.7g/dl, Plt 26.1万/ $\mu$ l, CRP 0.05mg/dl, TP 7.0g/dl, Alb 4.5g/dl, AST 28U/l, ALT 28U/l, BS 85mg/dl, T-cho 166mg/dl。

当院で施行した下部消化管内視鏡では上行結腸を中心に発赤，軽度浮腫を認めていた (Figure 1)。また，この時に発赤部位より生検して得られた病理組織標本を示す (Figure 2)。

臨床経過，内視鏡所見，病理組織より考えられる疾患は何か？

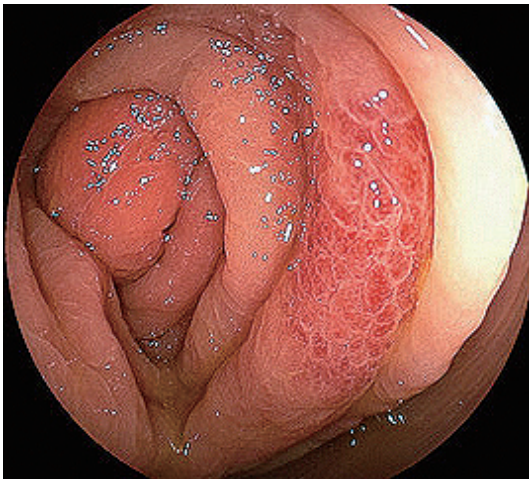


Figure 1.

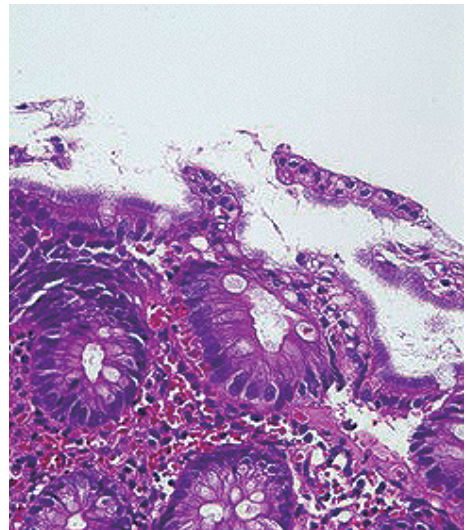


Figure 2.